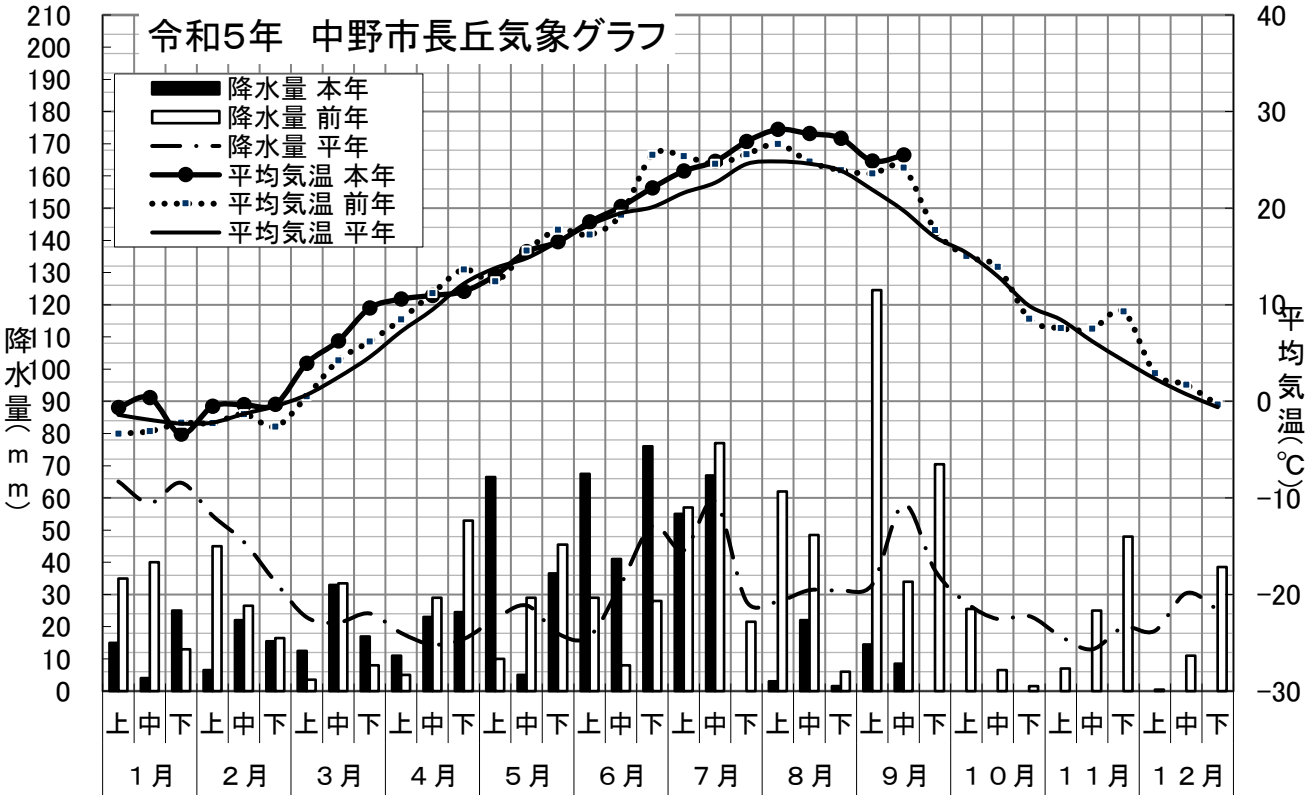
農 作 物 生 育 概 況

令和５年９月 25 日現在



【作　物】

＜水　稲＞

試験的な収穫は８月 31 日に始めたが、青みが強く継続的な収穫とはならなかった。ＪＡの乾燥施設の稼働が９月６日からで、収穫作業のスタートもこの日からとなった。収穫ピークは 9 月 24 日で、25 日現在の収穫進度は 60%となっている。

これまでの検査状況では、70～75%が２等となっている。格付けの理由は背白、腹白の未熟粒によるもの。カメムシ類による斑点米の被害は少ない。胴割れは早くから確認されているが、今のところは許容範囲内である。今後収穫遅れによる胴割れ粒の増加が予想され、さらに等級低下が懸念される。収量はやや少ない模様。

【果　樹】

＜りんご＞

「秋映」の収穫が始まっているが、高温干ばつの影響で果肉先熟傾向となっている。「秋映」に限らず、中生種のわい化樹や若木ではデンプンの抜けが早く、果肉硬度の低下が早い園地がある。

ハダニ類が甚発生した園地では、葉の傷みが目立ち、枯れたような症状が見られる。褐斑病は８月以降、降雨が極端に少なく、二次感染が抑えられたことで小康状態だが、薬剤の散布死角では落葉が激しい。

＜ぶどう＞

露地の「シャインマスカット」の糖度上昇がここ数年の中では早く進んでおり、特に日当たりのいい場所では、かすり症の発生が見られたことから、早い園では９月上旬から収穫が始まった「ク

イーンルージュ®」の着色は比較的順調で、黒めの着色になった園地もある。一方で、着色待ちとなった園もあるが、９月下旬に涼しくなったことで、着色が進んだ。

「ナガノパープル」の裂果は少なく、ロスが少ない。「巨峰」は、着色が思うように進まなかったが、９月上旬から脱粒が始まった園があり、ロスを減らすため、着色がやや赤い場合でも収穫を進めたところもあった。

「シャインマスカット」の果面に茶色くシミができる症状が本年も一部で見られているほか、未熟果粒混入症も散見されているが、大きな問題にはなっていない。

ここへきて、若木を中心にチョウ目の幼虫による葉の食害が散見されている。

＜核果類＞

ももは極晩生種の収穫が進められおり、糖度、着色ともに良好である。

プラムは「シナノパール」の収穫が９月下旬から始まった。果肉褐変症の発生は少ないが、凍霜害の影響で着果が少ない。

【野　菜】

＜アスパラガス＞

露地・半促成ともに、夏芽収穫中だが、乾燥により萌芽が極端に減少。露地では茎枯病の発生がやや多い。下旬からヨトウムシの食害増加。

＜白ネギ＞

早出しで９月中に収穫をする農家増えているが、葉枯病やアザミウマ類の発生が多くみられる。

＜きゅうり＞

露地のほとんどは、9 月上旬でつるが枯れ、収穫終了。

【花　き】

＜現在出荷されている品目＞

ソリダゴ、シンフォリカルポス、クジャクソウ、シュウメイギク、ベニスモモ、ツルウメモドキ、フジバカマ、アメリカテマリシモツケ、ススキ等の収穫期。高温干ばつの影響で、生育が遅れたり各品目において葉焼けや短茎化等の品質低下が見られている。実ものだと不捻や実がつかない等の影響も出ている。単価はここ数年大きな変動はないが、上位等級品の出荷量が減少していることから減収が見込まれる。